

---

# 小説 蛙

hentai be-sisuto

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

小説 蛙

### 【Zマーク】

Z3056P

### 【作者名】

hentai\_bessisuto

### 【あらすじ】

結構短い短編小説です。掌編つていうのかな。

「蛙がいない」

ふと俺は呟いた。そう、それだけ。ただ蛙がいないだけなのだ。  
俺はこの春、東京のある大学に入学した。偏差値のそこそこの私立  
大学である。俺は特に熱心に勉強に取り組まなかつたから、ここに  
しか来られなかつたのだ。いや、受験なんてどうでもよかつた。ち  
ょうどよさそだつたから入つたのだった。実家は地方だからアパ  
ートを借りて一人暮らしをしているわけだが、東京にあまり季節は  
感じられない。もちろん温度の変化はある。だがそれが季節だと言  
うのなら、どうでもいい。東京にも木は生えてる。公園もあつて木  
が生えてる。

ああ、俺の生活圏内だから他はどうだか知らないことをここで断つ  
ておく。

まあ、そんな風に木は生えてる。車道の隣に生えている。まるで歯  
のように生えてる。そしてただ生えてる。公園には木が集まってる。  
それが何かを成すわけではなく、ただ集まつて生えている。土もた  
だ露出している。

それで俺は宵になつた窓の外を眺めて、蛙がいないと呟いただけな  
のだ。九月過ぎには、故郷では蛙が鳴いていただろつ。やかましい  
ほどに夏が残した暑いの夜中。蛙が鳴きやまない夜。ベランダに出  
ると手すりがほのかに露を含んでいるのだ。

俺は夏、実家に帰らなかつた。特に実家でしたいこともなかつたし、  
それにこつちは自由だし、友人もいたし、そして俺は何かをして過  
ごして。

ああ、蛙がいないのか。

じゃあ「探しにでも行くか」

俺はふらふらと出かけた。

近所になににあるだらうと、てんで考えずにまつつき歩く。だが特になにもねえなあとと思う。俺は駅までも道のりしか知らない。だいたい友人とどつかで待ち合わせで出かけるからだ。あとはコンビニとビデオショップ、ファミレス、その他少数もうもろ。駅もアパートから近いから俺はアパート周辺には疎いのだろう。

だらだらと、あっちのほうが郊外かなと歩いて行く。蛙が妙な力でゆっくりと俺を引っ張つて行く。郊外がどっちか知らないが、駅から遠くに行けばあるだらう。郊外なら蛙の一匹くらいいるだらう。

ああ、歩くのがとろい、だるい。自転車が欲しい。だからと言つて大学の駅まで行くのはありえない。蛙を探しに電車でつてなんだよ。まあ今手ぶらだし、やんねえつてか、やらねえけどな。ああ、蛙探しつてのもないか。じゃあ、俺何やつてんだろうね。ああ、蛙、蛙。あー……蛙、蛙つてなんだよ。蛙がどうしたつての。あー蛙。いい加減でこいや。

家を出て十五分くらい歩いただらうか。いい加減にしたくなつてきた。自分が蛙を探しているのが本当に鬱陶しくなつてきたのだ。最初から氣だるく、少しずつ鬱陶しさは募つてきていたが、なぜか蛙が俺の頭を蹴るのである。ぴょんぴょこと跳ねまわるのだ。だが、俺もそれに逆らえるほどに鬱憤が溜まつてきた。そしてその蛙と冴えない苛立ちが拮抗して、俺はやつと立ち止つた。

立ち止つて、うぐと呻きたくなるきじみなさを俺は感じた。少し前で自販機が夜闇にシヨーを見せるように白い光を放つていた。夏が過ぎても、そこには羽虫が大量にたかっていた。その中に一匹羽虫より一段大きな生物がいる。

俺は近寄つて行つて、じつと見つめてみた。

それは違わず、蛙であつた。黄緑の肌をした、瞳の丸い、ちつさなアマガエルであつた。

少しの間、羽虫を~~鬱~~陶しく思いながら観察していたが、東京の蛙はただのカエルとしているだけだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3056p/>

---

小説　蛙

2010年12月5日03時43分発行